

組み立て開始(そのVII)

がつ

7

ようび

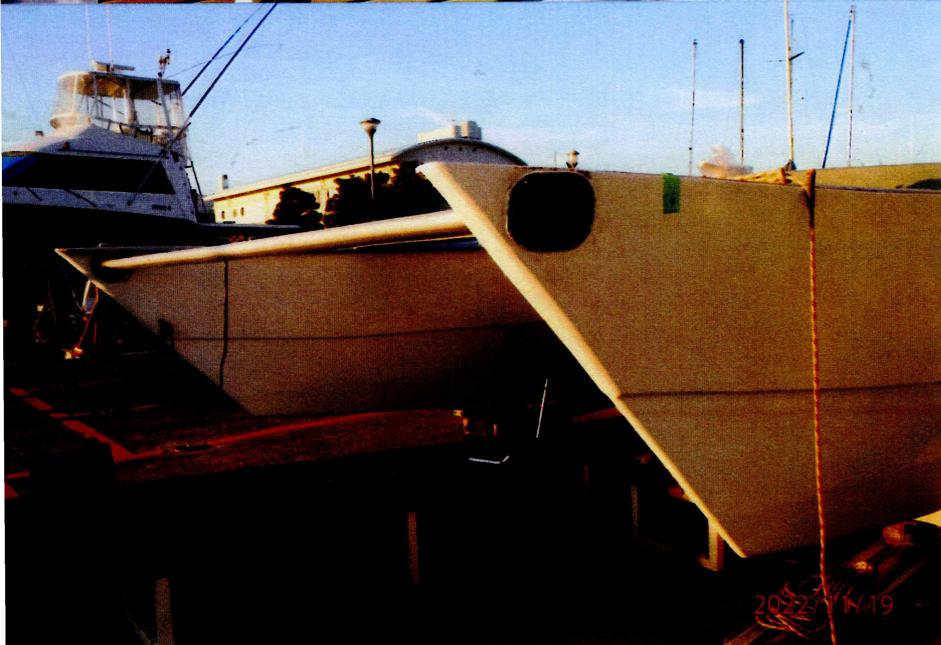
NO 1

11月11日(金)の夕方、(そのVI)のあちをまとめて、ほっとしていたら、東京のT社から電話が入った。TIKI-30の船体の最前部と最後部にマスト材を梨型の穴を開けて、左右に貫通させた事を賞賛してくれた。昔からトンネルを東西別の入口から掘り始め、まん中で合わなかったらどうするの……？と子供電話相談室の話にはならな

いのか、自作の楽しみでもある。TIKI-30の自作を始めた時から、アルミのマストを利用して、前部と後部にスタビを取り付けるのは、決定していた。又、桟材を利用した、コックソットのベシチを張るのに、抗菌まな板の業務用を使用するのも心に決めていた。〈弥生II〉のコックソットのチークは、10mm厚を使用した。抗菌まな板の



根太材は15mmを使用した。今回最高の贅沢を
 をして、20mm厚の60cm×30cmの業務用まな板の根
 太を使用した。日本の抗菌まな板は、〈弥勒II〉で使
 用して、来年で20年になるが、新品同様で、変色もして
 いない。T比との電話が終って、少ししたら、常陸太田市のY.
 Nドクターから電話が入った。15馬力の船外機を寄付
 する旨の、嬉しい御話です。誰か我こそは、と男気のあ



る人生経馬の豊
 かなんかと、思
 考していました。
 世の中広いもの
 で、「情けは人
 のためならず」
 を実行出来る人
 もおり、格言通
 りで、日本もまだ
 捨てたものじ
 やないと思えた。
 Y.N(共)は仲間
 のT比の手を貸り
 て、左舷コックピ
 ットの後部から
 シヤウ材を張り
 始めた。一本一
 本ていねいに、
 間隔も一定に

左舷コックピットの最後の一枚を張り、右舷コックピットの最後の用材の寸法合せをしていたら、T氏が来場した。K氏も来場して、『今朝は濃霧で張り付けたシヤウ材が水に濡れて先沢が出て、良かった...』と云っていた。ガーデンテラスのバーベキュー用ベンチを一度本気で研磨して、ニスで仕上げたら、皆が驚く輝きを見せると思えます。チークも、チークオイルで仕上げると、ニスで仕上げるともオーナーの好みですが、どちらでも綺麗で誰が見ても心地良い。昼近く、風が強くなり、昨日は自作のベンチで昼食を取ったが、本日はメンバールームで食した。Y.N. ドクターの34才(P)が帰港して、船外機の確認を行う。クルーの2人に食後、船外機を移動するのに手を貸してもらう。マリーナの軽トラを借用して、取り合えず、Oの学校の一番東の昇降口に搬入した。記念に写真を撮る。3時頃から雨の予報が出ているので、早めに帰宅する。途中、明日工本工新に渡す、御礼の品を仕入れる。帰宅して、バナナ半分、今朝食の残りのバターロール、ドラ焼き、せんべい等を食し、休養後、(そのⅡ)を書き始める。最初は、日記替りにこれだけは書いて残しておかないと、誰も何もわからずじまいで、残念なことなると思えて書き始めたが、ホンダOBのT氏が過日、昼食後に、『若い人が一斗缶を開けられない...』と話していた。さもありなんと、近頃の七光りの政治屋さんでも、バカな話ばかり出て来て、話にならない。11/4(月)の昼休みに28フィートのオーナーのO氏から、シヤウ材を利用したハンドレールの自作の相談を受けた。ようやく大洗のマリーナ

揃えるのに、ベニア材の5.5%を使用した。充電ドライバーを3台用意して、下穴を開ける皿キリをセットして、残る2台はフロアのビットを取り替えて、T比と2人で一丁づつを使用した。K比が見学に来場し、完成を楽しみにしている様で、ギヤラーが一人でもいると、作業が楽しくなる。東側のベンチ張りがおおかた終り、西側のベンチの半分位始めて、1/2(±)の作業は終了する。T比はシャワーを浴びてから帰宅するそうで、大洗町役場の守衛室に昇降口の錠を返却してもらう。

1/3(日)も朝一で役場から錠を借りて、マリーナに向う。右舷側のゴックビットをスオユニツク車で吊り上げるのに使用した、ダイヤモンド型のパッドアイの4中の取付穴を木箸で埋める作業を忘れていた。L-30の20%のテイスニセルを圧着する作業で、4中のタッピングビスと特大ワッシャを大量に使用して固着した。そのタッピングビスのネジ穴を埋めるのに木箸を使用した。エホキシパテを使用し堅固に接着した。木箸は長さか充分にあるので、両端を鉛筆の先の様に、テイスクサンダーで削り取って、短かくなるまで使用する。5cmになると、テイスサンダーは高速回転しているので、注意して作業をする。パッドアイは4つ穴ですので4x4個の16穴を埋めるだけですので、おじ終る。エホキシパテをタニボールのい片に作り、主剤と硬化剤を早めの硬化を狙って混ぜ合わせる。ハンマーでパテを付けながら叩き込む。パレットナイフをウエスで綺麗に拭き取り、鋸で残った木箸を切り取る。最後にナイフも鋸もアセトンで拭く。

の船のオーナーの中で、SDG's的発想をする人が出て来たことになる。国産のヨットメーカーが次々と消えて、日本のヨット界は、将来どうなるかと心配しても変化を起すことは出来ないが、セイフティセリングのアドバイスなら、得位とするところでは。O氏が「ハンドレールが取り付けていない船が多いので……」と話していたが、メーカーサイドの話であれば、チークのハンドレールでもアルミヤステンレスのハイフ製製のレールでも、すべて船西に結びつくので、安価な船にははくしていないのが現状です。

TIKI-30のキャビンハウスは約3.4mあるので、キャビン上部にハンドレールを取り付けたい。木製か金属製か迷っている。進水式を来春にして、先に伸ばせば、精神的にも経済的にも楽になる。

阿川弘之著の大好きな〈葎の髓から〉の「非難場所・陸軍士官学校」がある。(誤)非難 ⇒ (正)逆非難と(誤)士官学校 ⇒ (正)士官学校の誤用をタイトルにしたエッセイの中に、「語句の誤用乱用に全然気が付かないんであかね。だけど、文学は言葉の芸術でしょ。……後略」とワープロやパソコンの漢字転換とそれに気が付かない未熟さを、御指摘下さっている。神様が御作りなされた一番美しいものが女性で、人間が作った一番美しいものが帆船なら、ヨットは美術工芸品のカテゴリーに入ると思われます。工芸品的(美術品的)なハンドレールを製作するには、やはりそのA.B.Cがある。日本の雑誌には、ほとんど見掛けないが、欧米のそれには、特集記事で、チークデッキやハンドレールの工作法が詳細にある。

TIKI-30のゴックピットのベンチに、キークの替りに、シヤウを張って、完成したら、写真を撮って、セリング時のすわり心地を早く確かめたいが、J.ウーラム設計の曲線のベンチを設計通り自作して、楽しんでいるオーナーは多いと思われまふ。他の自作艇と並走したり、泊地でアフターセリングを楽しんだりしたいものです。同じ自作者同志なら、良く見れば何処とどうやったかすぐに判明する。「自分の乗る艇だから、イヤと云う程手回を掛けて……」と、初訪の宮古島の240ノースのオーナーのT氏に言われた事がある。来年の小笠原レースに出れば、沖縄から小笠原へカタマラン・クラスのレースが実施されるそうで、我々は三崎から小笠原に向けて中帆走する予定ですので、再会出来る楽しみもある。リサイクルのシヤウ材でゴックピットのベンチを張った40ftのカタマランなら、小笠原には楽に到着出来ると思えます。30ftのTIKI-30では一歩若勞するかも知れない。

R
X
11/15
伊藤

ハワイのワイキキの浜辺で、フランス人が自作した36フィートのカタマランの〈Kaimiloa〉は、1936年に作られた。ハワイ・カナヌまで合計250日の航海記は、法政大学出版局から昭和28年に出版され、た〈カイミロア〉です。現在アマゾンで1万円以上の値がかりましている。ハワイから西廻りで、40国のカンヌをめざす航海記は面白く、勉強になる。

E. ビリョッフ著の本で、大きな影響を受けたJ.ウーラム氏が、230ftのカタマランを自作し、大西洋を横断し、その体験後40ftのカタマランを自作し、再び、大西洋横断を成功させ、カタマランの設計・製作に頭角を表して、これまでにデザインした40面の販売数は6000を超えている。(1992年の記事より)